

The 12nd SUGINAMI Opera Series

MADAMA BUTTERFLY

Giacomo Puccini



第12回 杉並オペラシリーズ

「蝶々夫人」

G.プッチーニ作曲 全3幕 字幕付き原語上演

2024年 9月16日(月・祝)

17:00(開場) 17:30(開演)

セッション杉並ホール

入場料: ¥5,000(全席自由)

合唱: オペラ合唱団カペラ

管弦楽: Casa Musica da Camera

指揮: 高山 美佳

演出: 青木 素子

蝶々夫人…………… 青木 素子

ピンカートン…………… 谷川 佳幸

シャープレス…………… 大石 洋史

スズキ…………… 石橋 佳子

ゴロー…………… 中野 雄介

ボンゾ…………… 村山 洋介

ヤマドリ…………… 青木 貴義

ケイト…………… 切敷 典子

神官…………… 堀田 高弘

ヤクシデ…………… 鈴木 淑博

蝶々夫人の子ども…………… 黒川 歌奏

MADAMA BUTTERFLY

Giacomo Puccini



「蝶々夫人」

G.プッチーニ作曲



指揮
高山 美佳



演出・蝶々夫人
青木 素子

初演：1904年2月17日スカラ座(ミラノ)

台本：ジュゼッペ・ジャコーザ

ルイージ・イッリカ

「蝶々夫人」は、オペラ作曲家プッチーニが、「ラ・ボエーム」「トスカ」といった作品の成功を経て、まさに脂の乗り切った時に書かれた名作である。

物語は、明治初期の長崎を舞台に、没落藩士令嬢の蝶々さんとアメリカ海軍士官ピンカートンとの恋愛の悲劇を描く。

原作はアメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアの弁護士ジョン・ルーサー・ロングが1898年にアメリカのセンチュリー・マガジン1月号に発表した短編小説「Madame Butterfly」であり、それをアメリカの劇作家デーヴィッド・ベラスコが戯曲にした。

プッチーニはこの芝居をロンドンで観て感銘を受け、オペラの題材とすることを決める。

そして日本を訪れこそしなかったものの、たくさんの日本に関する資料に当たり、数多くの日本の曲を取り入れている(「さくら、さくら」「お江戸日本橋」など)。

1904年2月17日、ミラノのスカラ座での初演は大失敗だったが、同年5月28日ブレスシアで上演された改訂版の成功以来、世界のオペラハウスの標準的なレパートリー作品となっている。



ピンカートン
谷川 佳幸



シャープレス
大石 洋史



スズキ
石橋 佳子



ゴロー
中野 雄介



ボンゾ
村山 洋介



ヤマドリ
青木 貴義



ケイト
切敷 典子



神宮
堀田 高弘



ヤクシデ
鈴木 淑博



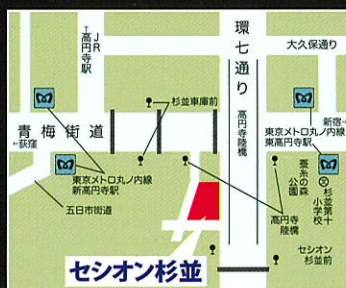
蝶々夫人の子ども
黒川 歌奏

舞台監督：亘理 千草
照明：ライトシップ
ヘア・メイク：濱野由美子

主催 ■ 美しい日本の歌の会
共催 ■ 杉並区教育委員会
協力 ■ リリカイタリアーナオペラ
制作 ■ オペラ工房CAPERA

■お問合せ■
オペラ工房CAPERA TEL:090-8510-1281

E-mail:mococapera@icloud.com



セッション杉並

- 東京メトロ丸ノ内線東高円寺駅下車徒歩5分
または新高円寺駅下車徒歩7分
- 関東バス(中野⇄五日市営業所・吉祥寺)杉並車庫前下車徒歩5分
- 都営・京王バス(阿佐ヶ谷⇄渋谷)セッション杉並前下車徒歩2分
- 関東バス・京王バス(永福町⇄高円寺)新高円寺駅下車徒歩7分

〒166-0011 杉並区梅里1丁目22-32
TEL 03-3317-6611
<http://www.eventernote.com/places/1064>
※お車でのご来場はご遠慮下さい。